

# 受注企業動向調査結果

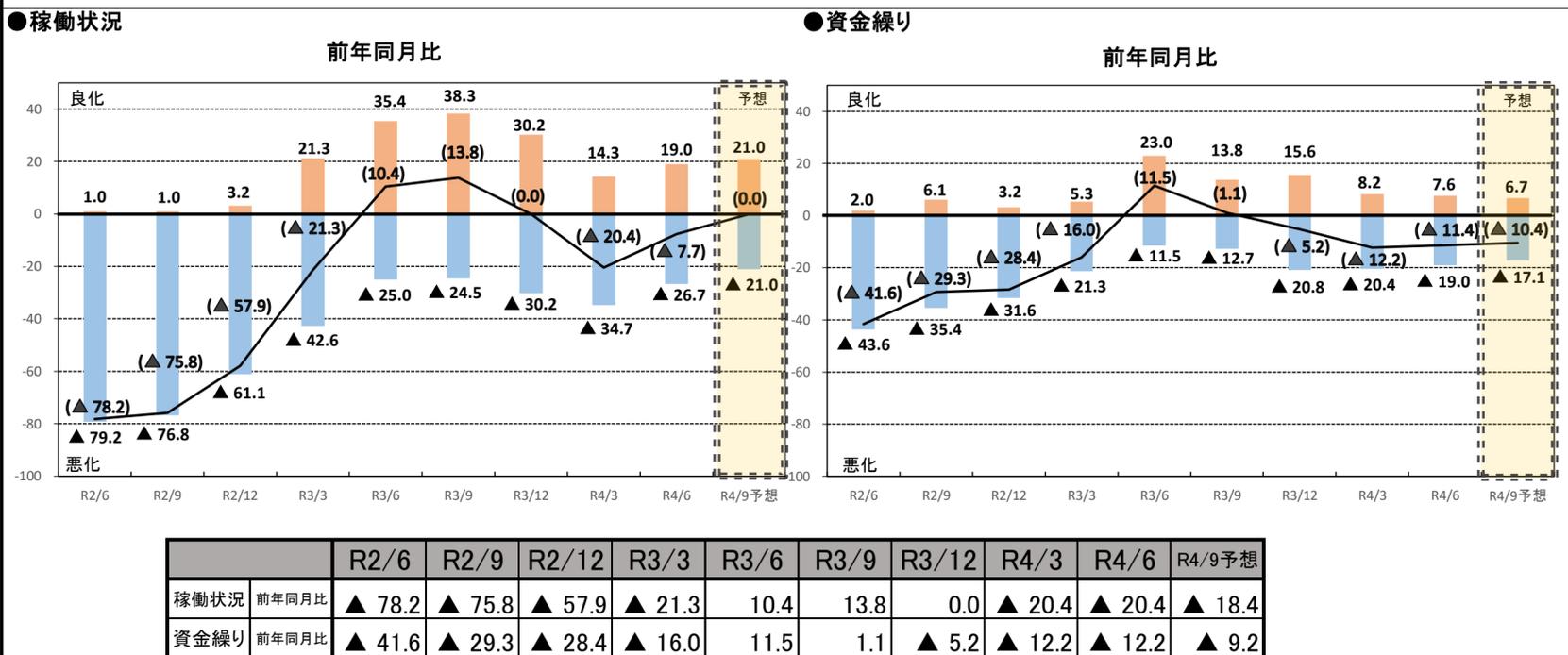
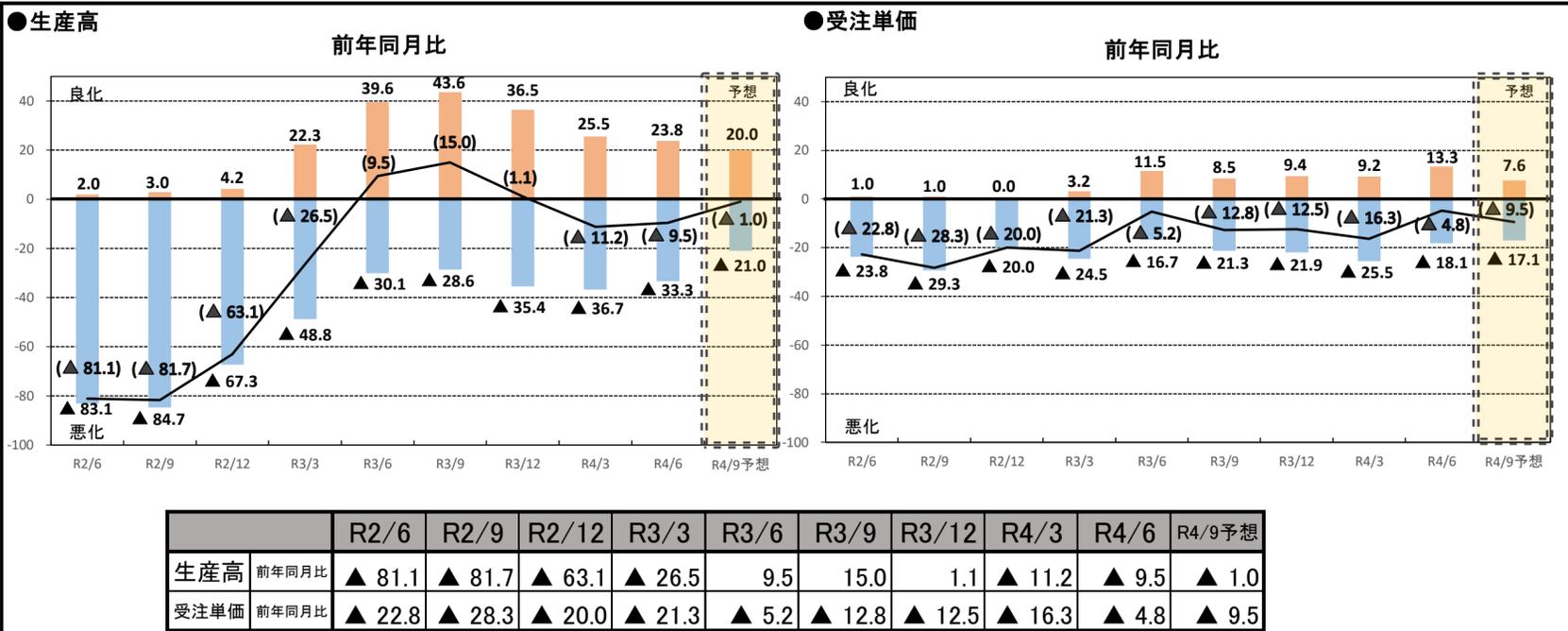
-2022.7-

- 調査時点 令和4年6月調査(令和4年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 105社(回答率:70.00%)

## <業種内訳>

プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	8社
金属製品	19社
一般機械器具	27社
電気機器	18社
輸送用機器	7社
精密機器	10社
縫製	8社
計	105社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



- ### ●概要(総合)
- ・生産高(前年同月比)DIは▲9.5で前回の▲11.2から1.7ポイント増となった。
  - ・受注単価(前年同月比)DIは▲4.8で前回の▲16.3から11.5ポイント増となった。
  - ・稼働状況(前年同月比)DIは▲7.7で前回の▲20.4から12.7ポイント増となった。
  - ・資金繰り(前年同月比)DIは▲11.4で前回の▲12.2から0.8ポイント増となった。
  - ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲1.0、受注単価は▲9.5、稼働状況が0.0、資金繰りは▲10.4という予想になった。
  - ・その他自由意見として、
    - ・受注は好調であるが、部材入手が困難で価格も高騰している。
    - ・受注単価以上に、材料費や経費が増加している。
    - ・資材・エネルギー価格の上昇が速く、価格転嫁が遅れ気味になっている。
    - ・顧客への値上げ交渉で苦戦しているため、行政には監視をしっかりとお願いしたい。
    - ・コロナ禍以降、人員確保が困難となり、生産の増強、技術の承継が危ぶまれる。
- という意見が寄せられた。